

国語科 学習指導案（略案）

平成30年9月14日（金）第5限
 県立春日部女子高等学校 2年5組

1 単元名：『源氏物語』

2 単元について（学習内容の概要）

日本古典文学の最高峰である源氏物語を学習する。文学のジャンルとしては歌物語である。文中に挿入される歌は登場人物の心情（感動）の中心を表現したものが多く、その解釈如何により物語の理解の深さにも違いが生じる。本時は源氏物語の学習の導入として、和歌の修辞のうち、生徒の理解がやや困難と思われる「序詞」と「縁語」に焦点を当てる。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ・源氏物語の概要を理解しようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・源氏物語の本文内容を的確に捉えることができる。（読むこと）
- ・和歌を修辞に留意して解釈できる。（読むこと）
- ・和歌の修辞を理解する。（知識・理解）

(2) 単元及び本時の活動内容の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・源氏物語の概要を理解しようとしている。 ・和歌の修辞を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・源氏物語の本文内容を解釈しようとしている。【指導事項イ】 ・和歌の修辞に留意して解釈しようとしている。【指導事項工】 	和歌の修辞のうち、序詞と縁語について理解を深めている。【指導事項工】

4 生徒観（学習状況の実態）

文系クラスの生徒である。普段から、授業中に対話を用いて学ぶ時間を多く設けているためジグソー法についても抵抗はないと思われる。1年次にほとんどの生徒がジグソー法を体験した。今年度は、担当するクラスで古典のジグソー法を行うのは初めてである。和歌については1年次に『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』を既習であり、修辞についても「掛詞」「枕詞」については理解している。

5 指導計画

時	指導内容等
1	源氏物語の概要について
2 本時	『源氏物語』読解の導入として歌合（うたあわせ）を行う
3 ~ 10	源氏物語の読解

6 本時の学習について

⇒ 別紙「授業案」に詳細記載

平成 30 年度 授業エキスパートを目指す授業研究会

東京大学 CoREF

知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名：埼玉県立春日部女子高等学校

授業日時	平成30年9月14日(金)	教科・科目	国語・古典B
学年・年次	2学年	児童生徒数	35名
単元名	『源氏物語』(和歌の修辞)	本時/この内容を扱う全時数	2/10
教科書及び教科書会社	新 精選古典B 古文編 (明治書院)		

授業のねらい(本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)

●和歌の修辞の中で「序詞」と「縁語」の理解を定着させたい。また、生徒自らが判者となり、和歌二首の歌合(うたあわせ)を行うことを通して主体的に和歌を読み味わう力を身につけさせたい。

●この授業後に読む『源氏物語』での文中歌についても、使われている修辞技法や込められている心情に迫ることに繋げたい。

メインの課題(授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)

●歌合(うたあわせ)をしてみよう。

左：ほととぎす鳴くや五月のあやめ草あやめも知らぬ恋もするかな

(古今和歌集・読み人知らず)【使われている修辞は序詞】

右：袖ひちてむすびし水の凍れるを春立つ今日の風やとくらむ

(新古今和歌集・紀貫之)【使われている修辞は縁語】

*優れているのは左・右どちらの歌か、判者となって判定しよう。

児童生徒の既有知識・学習の予想(対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出そうか。また、どの点で困難がありそうか。)

グループでの活動前は、読んだ第一印象(好き嫌い)で二首の優劣を付けることが予想される。序詞と縁語については、用語を聞いたことはあるものの、枕詞や掛詞ほど理解は進んでいないと思われる。序詞と縁語を詳しく他者に説明できる段階に至っている生徒は少ないと考えられる。

期待する解答の要素(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)

生徒同士の対話やワークシートの記述に

- ・序詞と縁語の違いが分かった。
- ・縁語を入れると連想が広がるよね。
- ・自分ではコントロールできない「恋する気持ちが」よく伝わってくる。
- ・縁語は「隠れミッキー」だ!
- ・縁語や序詞によって、和歌の作者と読者が気持ちを共有できるね。

などの表現が出てくれば、理解が深まっていると考えられる。

平成 30 年度 授業エキスパートを目指す授業研究会

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで押さえないポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞
エキスパート A：ほととぎす鳴くや五月のあやめ草あやめも知らぬ恋もするかな 【使われている修辞は序詞】について考察する。
エキスパート B：袖ひちてむすびし水の凍れるを春立つ今日の風やとくらむ 【使われている修辞は縁語】について考察する。
エキスパート C：「どうすれば和歌は面白く読めるのか、楽しく学べるのか」についての文章を読み、考察する。
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
●文中歌に着目しながら『源氏物語』の読解を進める。 ●ほかの修辞技法にも関心を持ち、和歌を主体的に読み、また詠む。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	昨年度の国語総合で『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』を学習した。	三大和歌集の特徴と、掛詞や枕詞などの修辞技法を理解している。
前時	『源氏物語』概要説明を聞く。	日本文学の最高峰である『源氏物語』の概要を理解するとともに、ジャンルが歌物語であり、文中の和歌は登場人物の感動の中心であることを理解する。
本時	和歌二首の歌合を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・序詞と縁語の修辞の違いと特徴について理解する。 ・自分なりの根拠をもって歌合を行うことができる。
次時	『源氏物語』の本文読解を行う。	文章に即して内容を把握し、登場人物の心情を理解することが出来る。
この後	文中歌の解釈を行う。	

上記の一連の学習で目指すゴール

<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の修辞の一つである縁語と序詞について理解する。 ・序詞により、読者と作者が体験やイメージを共有できることを実感する。 ・和歌の修辞を理解したうえで二首を読み比べ、自分なりの根拠を持った優劣を付けることができる。 ・他の和歌についても関心を持ち、主体的に読むことができるようになる。
--

平成 30 年度 授業エキスパートを目指す授業研究会

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
3分	本時の活動概要を聞き、「はじめの間」に答える。(ワークシート1)	*シート1はあまり時間をかけず、記述量が少なくても良いことを伝える。 *素早く移動させる。
12分	エキスパート活動(ワークシート2) A: 序詞について考察する。 B: 縁語について考察する。 C: 和歌のおもしろさについての文章を読み、要旨をまとめる。	*グループを巡回しながら、対話が進んでいない班には介入する。何に困っているのかを聞いて助言する。 *素早く移動させる。
20分	ジグソー活動(ワークシート3) 【歌合をしよう】 左右どちらの歌が優れているか(後代に残したい歌か)根拠をもって答えられるように、話し合う。	*ジグソー班にABCから各一人は入るように班を組む。 *時間は足りなくなることが予想される。状況によってはジグソー活動を延長する。 *代表発表者を決めておくよう指示する。
10分	クロストーク(ワークシート4) 班ごとに、歌合の結果を代表者が発表する。	*各班2分以内、時間厳守で発表させる。 *選ぶ根拠を述べさせる。 *発表内容については極力否定せず、反復やまとめのコメントを挟みながら次の班の発表に移る。 *予定時間内に出来る限り多くの班に発表してもらう。
5分	生徒が一人ひとり「改めての間」に答える。(ワークシート5) (時間があればアンケートに回答する。) 次時の予告を聞く	*グループ内で対話した内容や、クロストークで聞いた内容を含めて書いても良いことを伝える。 *時間があればアンケートを配布する。 *次時の予告をする。

グループの人数や組み方

- エキスパート班は3人×9、4人×2のグループにする。グループ分けソフト、あるいはトランプを使ってくじ引きで組む。
- ABC各班から1人ずつ入るようにジグソー班を組む。
- 欠席者がいる時には臨機応変に組み直す。4人班になっても問題なし。

(参考文献・引用等)

渡部泰明 編『和歌のルール』(2014 笠間書院)